

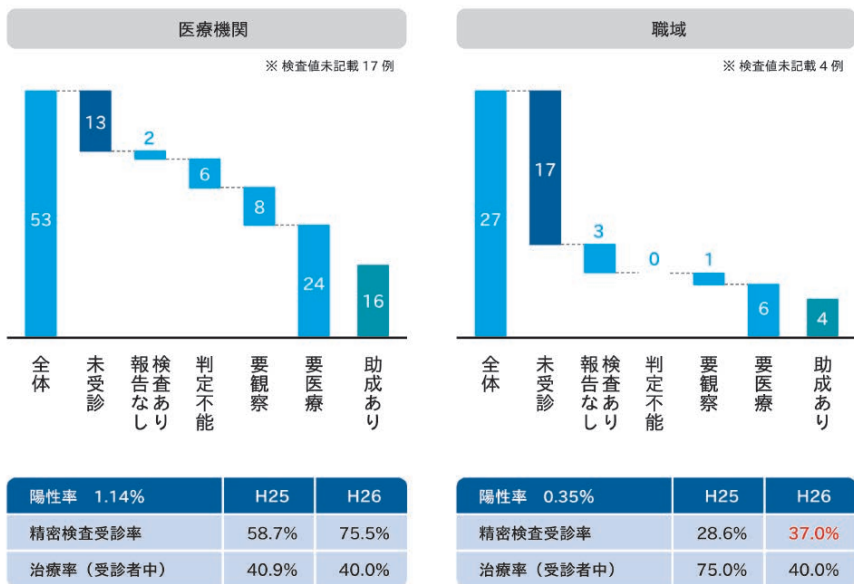
VI. 今後の課題

C型肝炎に対する課題 医療機関は受療率の向上が課題 職域は精検受診の向上が課題

精密検査結果報告書は、県の無料検査で肝炎ウイルスが陽性と判明した際に、県から陽性であることを通知する文書とともに同封される報告書です。陽性者はこの文書をかかりつけ医に提出し、精密検査を受けます。この文書には精密検査で測定すべき検査項目が記してあり、

かかりつけ医はその項目のすべての検査を行い、報告書に記載し、県へ返送するものです。平成25年度以前と平成26年度の報告書を比べると、医療機関での健診では精密検査の受診率は向上しています。しかしながら、職域では受診率は向上していますが、それでも37%とかなり低値であり、今後職域での精密検査の受診率の向上が急務であります。

図VI-1. 医療機関と職域の抗ウイルス治療までの脱落要因 (C型)



B型肝炎に対する課題 定期受診に関する患者の認識と 実際の受診行動のギャップが課題

肝がん一因であるB型肝炎ウイルス陽性者に対するアプローチとしては県民に対する啓発と出前の無料検査により受検者数が増えています。しかしながら、定期的な精密検査を受診するに至らないものが多数存在します。

精密検査の定期的な受診率を向上させることが、今後の課題です。

B型肝炎はC型肝炎とその病態に違いがあり、C型肝炎ウイルス陽性者に対するアプローチとは違った方法を考える必要があります。す

なわちC型肝炎ウイルス陽性者は基本的に全例抗ウイルス治療を行うことが推奨される疾患ですが、B型肝炎は抗ウイルス療法を行う必要がある陽性者は10～20%と考えられ、その他の多くの陽性者は定期的な通院が必要な病態であることがほとんどということです。

定期的な通院のなかでも腹部エコー検査がより重要ですが、先行の調査では定期的に通院していると答えた陽性者でも約半数は、半年に1回の腹部エコー検査を受けていないことが判明しています。これらの定期受診を“しているつもり”群に対してのより効果の認められる啓発、対策を行っていくために資材を開発し、啓発を行います。

図VI-2. B型肝炎陽性者 “定期受診”に関する患者の認識と実際の受診行動のギャップ

